社会福祉法人ほっと未来SOUZOU舎 広報誌

SOUZOU

発行元：社会福祉法人ほっと未来SOUZOU舎
〒362-0058 埼玉県上尾市大字上野358番地12
Tel：048-729-8422　https://hmss.or.jp

2026.07 vol.7
令和8年7月発行

社会福祉法人
ほっと未来
SOUZOU舎



新入職員インタビュー

日高　天 職員［生活介護 生活支援員］



Q. 福祉の仕事を目指したきっかけは？

高校時代の部活動の顧問から「福祉に向いているよ」と言われたことがきっかけです。今では、この道に来て良かったと感じています。

Q. 職場の印象は？

周りの先輩がいつも気にかけてくれ、分からないことも優しく教えてくださるので、とても心強いです。

Q. 目標にしている職員は？

山中さんです。利用者さんにも職員にも分け隔てなく接し、笑顔で学び続ける姿を尊敬しています。

Q. やりがいを感じる時は？

利用者さんとの接し方については、まだまだ分からないことが多く、手探りで関わっているところがあるのですが、利用者さんが目を合わせてくれるようになるなど、少しずつ関係性の変化を感じられた時は、やりがいを感じます。

Q. これからの目標は？

まだ分からないことも多いですが、先輩職員の皆さんから学びながら、利用者さん一人ひとりに合った関わりができるようになりたいです。

そして、利用者さんにも職員にも安心してもらえるような、笑顔を大切にできる職員を目指して頑張っていきたいと思います。

よい支援は、よい心の状態から

―令和8年度の事業実施に寄せて―

令和8年度、私たちが大切にしたいことは、「優しい組織」「ご機嫌な仕事」「失敗を分かち合える職員集団」です。

その土台にあるのは、専門職としての知識や技術の前に、まず社会人、職業人、そして一人の人として、どう生き、どう働くかという根本的な問いです。福祉の仕事は、人と人との関わりそのものです。だからこそ、挨拶を大切にすること、感謝の気持ちを忘れないこと、喜んで働くこと、人を責めないこと、素直な心を持つことなど、日々の人間力の向上が何よりも大切です。

どれほど専門的な知識を学んでも、心の在り方が整っていなければ、よい支援、よい仕事にはつながりません。利用者の方に対して敬意を持っているか。人としてのやり取りを大切にできているか。そして何より、障害のある人のことを心から好きでいられるか。そこに、私たちの支援の出発点があります。

「優しい組織」とは、甘い組織ということではありません。相手を思いやり、困っている人に気づき、責めるのではなく支え合える組織です。そのためには、一人ひとりが自分の言葉、態度、表情を見つめ直し、相手を大切にする心の型を身につけていく必要があります。

「ご機嫌な仕事」とは、ただ楽しく働くということではありません。自分の仕事に意味を感じ、感謝と喜びを持って働く姿勢です。その姿勢は、利用者の方にも、仲間にも伝わります。私たちの心の状態は、支援の質そのものに表れます。

また、支援の現場では、迷いや失敗が必ずあります。大切なのは、人を責めることではなく、失敗を分かち合い、振り返り、次に生かすことです。素直に学び合える職員集団であることが、よりよい支援を育てます。

まずは心を整えること。心の在り方の型を大切にすること。その積み重ねが、専門性を本当の意味で生かし、利用者一人ひとりの豊かな暮らしを支える力になります。令和8年度も、人として成長し合いながら、温かく信頼される法人づくりを進めてまいります。

令和8年度、私たちが大切にしたいことは、「優しい組織」「ご機嫌な仕事」「失敗を分かち合える職員集団」です。

本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

社会福祉法人
ほっと未来SOUZOU舎
理事長　下里晴朗

社会福祉法人
ほっと未来
SOUZOU舎











ほっとこどもBBQを開催しました

小城友幸

令和8年4月25日（土）、障害児・者多機能施設アジールにて「ほっとこどもBBQ」を開催しました。

今年度は、これまで以上に「体験すること」を大切なテーマとして企画しました。子どもたちが経験できる機会には、さまざまな背景によって差が生まれてしまうことがあります。だからこそ私たちは、誰もが参加しやすく、「やってみたい」と思ったことに一歩踏み出せるイベントを目指しました。

当日は、自分でお肉を焼くBBQ体験や、おやつ作り体験を実施しました。火を使うこと、食材にふれること、自分の手で作ったものを味わうこと。一つひとつは小さな体験かもしれませんが、子どもたちにとっては大きな挑戦です。スタッフや保護者と一緒に挑戦するなかで、「できた！」という表情をたくさん見せてくれました。

音楽療法士の下川氏による楽器演奏体験では、思い思いに音を鳴らしながら楽器に親しみました。その後、上尾市内で活動する「ひまわり館バンド」の演奏に合わせ、会場全体で音楽を楽しみました。身体を揺らしたり、楽器を振ったり、じっと音に耳を傾けたり。それぞれの表現が尊重される、あたたかな時間となりました。

体験は、子どもたちの未来につながる大切な種です。「やってみたい」「できた」「またやりたい」という気持ちを積み重ねることで、自信や自己肯定感が育まれていくと考えています。

社会福祉法人ほっと未来SOUZOU舎では、これからも一人ひとりの「やってみたい」という気持ちを大切にしながら、誰もが多様な経験にふれられる機会づくりに取り組んでまいります。







安全運転管理委員会を立ち上げました

委員長　杉山　祐一

法人では、送迎業務や車両管理における安全性をさらに高めるため、「安全運転管理委員会」を立ち上げました。

送迎は利用者の皆さまの安全と安心した通所を支える大切な業務であり、公道を走行する法人車両として、地域の方々にも安心していただける運転が求められます。

委員会では、安全運転に関するルール整備、職員への啓発・教育、事故やヒヤリハット事例の共有、再発防止策の検討を行います。

具体的には、速度や一時停止、住宅街での徐行を意識した運転の徹底、注意喚起看板の設置、乗降時の安全確認、車両点検・整備管理、安全運転研修に取り組みます。

また、乗務前の点呼では、睡眠不足、発熱や体調不良、疲労の蓄積、飲酒の有無を確認し、アルコールチェックも実施しています。

定期健康診断や勤務シフトの調整等を通じて、職員が心身ともに安全に運転できる体制づくりにも努めています。

今後も利用者の皆さまの安全を第一に、地域に信頼される送迎体制づくりを進めてまいります。



強度行動障害支援者養成研修
開催のお知らせ

この度令和8年度第1回強度行動障害支援者養成研修（基礎研修・実践研修）が、埼玉県の指定をいただき、令和8年7月に桶川市商工会館にて開催されます。7月7日、10日が基礎研修、14日、17日が実践研修となります。基礎研修においては、行動障害のある方に対する適切な支援を行う人材育成を目的とし、実践研修においては、適切な支援計画を作成することのできる人材育成を目的としております。障害福祉従事者のみならず、医療従事者、特別支援学校教員等にも広く受講を呼び掛けて開催しております。

この研修を受講し障害特性の理解に基づく適切な支援をチームで行うことにより、障害のある方の行動障害が低減し安定した日常生活が送れることにつながります。当法人職員も昨年度3名、専門的知識の習得、支援スキルの向上を図り、日々の支援に生かせるよう受講しております。

障害のある方の豊かな地域での暮らしを支えていくため、教育、医療、福祉と連携し、今年度も強度行動障害支援者養成研修を開催してまいります。

強行研事務局　中村圭児

編集後記

今号の誌面づくりでは、それぞれの記事に込められた思いや現場の様子が伝わるよう心がけました。新入職員の成長、子どもたちの挑戦、安全な送迎を支える取り組みなど、改めて法人には多くの人の思いがつながっていることを感じます。これからも、日々の活動や法人の魅力を分かりやすくお伝えしてまいります。

齋藤千種

発行元：社会福祉法人ほっと未来SOUZOU舎　〒362-0058 埼玉県上尾市大字上野358番地12　Tel：048-729-8422　https://hmss.or.jp
発行責任者：理事長　下里晴朗